第 19 回　全退教　東北・北海道ブロック交流（岩手）集会

（２０１１，１０，５～１０，６）

全北海道退職教職員の会
（道退教）参加者の声

（岩手県　大槌町役場前被災状況を説明する中川実行委員長、耳を傾ける参加者）

（作成　道退教事務局）

（大槌町）

（釜石市）

（釜石市）

（陸前高田市）

（陸前高田市）

第１９回全退教　北海道・東北ブロック交流（岩手）集会～三陸沿岸被災地に学ぶ～

２０１１年１０月５～６日

第１日目：１０月５日（水）

新花巻駅－－－－－－遠野－－－－－釜石（シープラザ）－－－－－（三陸道）－－－－－城山トンネル－－－－大槌町役場跡

集合受付　出発　１２：１０

遠野　１３：１０

釜石（シープラザ）　トイレ休憩　１４：１０～１４：３０

大槌町役場跡　下車、被害状況の説明　１５：００～１５：２０

－－－－－－－片岸－－－－－両石－－－－－釜石　市場前－－－－－釜石シープラザ－－－－－遠野　ホテル（あえりあ遠野）

（車窓解説）

両石　下車　被害状況の説明　１６：１０～１６：３０

釜石シープラザ　トイレ休憩・買い物　１６：４０～１７：１０

遠野　ホテル（あえりあ遠野）　全体会会場→チェックイン　１８：００

第２日目：１０月６日（木）

あえりあ遠野－－（赤羽根経由）－－住田－－－陸前高田（キャピタルホテル前）－－－（野々田交差点　浜街道）－－－大船渡リアスホール－

出発　７：３０

陸前高田　下車　被害状況の説明　８：３０～８：５０

（野々田交差点　浜街道）（加茂神社前）

大船渡リアスホール　トイレ休憩　９：１０～９：３０

－－権現堂－－－－－住田－－－－－（荷沢峠経由）－－－－－鱒沢－－－－－新花巻駅

解散セレモニー　１１：５０～１２：００

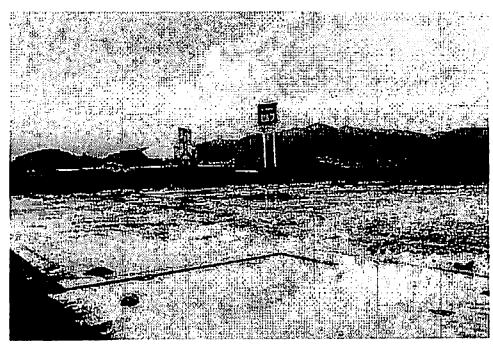
２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（　池内　省子　）（石狩・札幌）支部

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと等

テレビで見ていた壊れた家や橋、車やガレキの山。地盤沈下で出来たどこまでも続く水たまり等々を目のあたりにして言葉を失いました。

周りの人たちから、ただ「あーんー」というため息が聞こえるだけでした。何も出来ずにいるわたくしたちに、細かい気配りをし、集会の準備やい世話をいてくれた岩手退教の先生達の元気や勇気はどこからわいてくるのだろうと思いました。



2　被災地のみなさんへ

家や財産は流されても、心は簡単に流されません。
地震や津波は止められなくても、原発は止めることが出来ます。
力を合わせてがんばろうと決意しています。

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（伊藤蓉子）（石狩札幌）支部

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと、交流会で学んだこと等

私たちが目にしたのは、いつもテレビで見知っている景色そのものでした。が、現地に立つとその被災のスケールの大きさに、ただ息をのみ、敗北感のようなものにおそわれました。

荒漠たる「原野」、がレキの丘陵、頑丈だった建築物の損傷、残る礎石、アルミホイルを丸めて投げ捨てたような自動車、…。プレハブの仮設住宅は、飼育小屋か、物置小屋のようにも見え、入居されている人々のくらしのきびしさを感じとれました。

現地訪問で「復興ー失なわれたものをとりもどす」ことの大変さをあらためて感じています。

「がんばろう！東北」と各地からはげましがあり、ボランティアがひっきりなしに入ります。またチャリティイベントもあり、私たちも募金活動に力を入れます。それらはどんなにか現地の人々を癒し、生きる支えになっているか。（ほんとうに大切で尊い行動です。

でも、明日はどうなる、どうする―　個々の思いや努力ではどうにもなりません。小金を持っている人でもだめです。

行政の力です。（国会で提言している政党があるように）現地自治体が復興の街づくりの青写真を示し、一歩ずつ進める。それには国の施策と財政保障が不可欠、それしかない―　とおそまきながら実感するにいたりました。　東北から帰って見るテレビの映像は、リアル感をもって迫ってきます

2　被災地のみなさんへ

現地の実行委の皆さんのご苦労には頭が下がりました。

また、ホテル「あえりあ遠野」の対応にも感動しています。全体学習会と夜おそくまでの交流会、その間の短時間での宴会場のセット、そして翌日6:30からの朝食―この日程でとても豪華なご馳走がふるまわれました。ここにも現地の人々の意気込み、気合いの入ったもてなしを感じとりました。

被災地への思いが強まりました。

＊ＦＡＸによる送信は原稿が汚れる恐れがありますので、郵送で送ってください。

＊同じ様式でパソコン、ワープロ使用による作成も可。

２０１１年　　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

道退教　　加　藤　　活　男

１、被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと、交流会で学んだこと等

３月１１日、東日本大震災により開催が危ぶまれていた交流会をの開催を決断でされた「いわて退教」「岩手高退教」の仲間のみなさんに敬意を表したいと思います。

自らも被災者であり、今回の実行委員長でもある『中川　淳さん』のガイドで全行程を案内していただく。「百聞は一見に・・・・」というが、日々報道され、想像させられていた光景とはほどとおく、自然エネルギーの力の大きさは想像をはるかに超えるものであることを思い知らさせた気がします。町が、家屋が根こそぎ破壊され、瓦礫の山と建物の跡だけが続く。大槌町の二階建ての庁舎前で全員黙祷、町長はじめ職員多数が犠牲になったという。

１８時より全体会、「大震災から学ぶこと」と題して実行委員長の中川さんの講演、釜石市の『鉄の歴史館』駐車場から見た膨れた海が防波堤を越えて我が家に襲いかかるのを見たという。どんな気持ちで見ていたのか想像もつかない。津波への備えとして避難訓練の重要さを強調され、大槌小・中の子どもたちの校舎は隣り合っており避難訓練を中学生が小学生をかばいながら実施していた。この日も小・中一緒に避難したが、中学生が、「ここでは危険だからもっと上に行こう」と小学生を誘導しながら全員無事避難したという。日頃の避難訓練の成果が中学生の自主的な行動を生み出したものとも考えられ、強い感動を受けました。

さらに、『命てんでんこ』（にげるが第一）まずは自分の身を安全な場所に避難することを第一に、常日頃から考え行動することを確認しておくことの大切さを学ばせていただきました。家族のこと、友人のこと、隣近所のことなど気になることがあるにせよ自身の安全を第一に考え行動することだと教えられました。

２日目は陸前高田市、見渡す限り瓦礫の山とコンクリート造りの建物がポツンポツンとと残っているだけ、はるか遠くまで見渡せる。地盤沈下のせいで平地には水がひけないで残っているところなど、復興など何時のことかと気の遠くなる思いでした。

半年以上も経過したのに、被害の後始末も終わっていない、厳しい冬をひかえて被災者の生活環境も気にかかります。加えてこのあとどんな経過で復興計画が描かれるのか、住民の要求や願いがどう生かされるのか。強い関心を持って注意深く見ていきたい。

２、被災地のみなさんへ

いわて退教・岩手高退教のみなさん、大変な状況の中、細かな心遣いにいたく感動しました。高齢者にとっては若干きつかったなあと思いましたが、あの環境の中ではいたしかたのないことであったと思います。大変なご苦労をおかけした事に深く感謝申し上げます。

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（　加藤　久美子　）　（檜山）支部

1　バス１号車、案内は自らも被災者でいらっしゃる中川先生。
私達の方を向いて長い時間立って案内してくださいました。「このトンネルをくぐったらいろいろと景色が変わってきますよ」と。

車窓の向こうはコンクリートの建物のガラスが割れ、中はゴチャゴチャのまま。周辺は壊れたい家々・瓦礫・新聞紙をぎゅっとにぎってくしゃくしゃにしたような車の山・・・・・。
大槌町に降り立ちました。翌日は陸前高田市。
車窓に見える部分ではありません、見渡す限り、本当に見渡す限りの景色すべてが「津波」という想像もつかない「魔もの」が破壊尽くした跡。

新聞やテレビでみたあの被災地に今、私が立っている。

準備してくださった岩手の先生方に心から感謝します。直接耳でお聞きしたようす、目でみた被災地の様子を自分の言葉で伝えることができます。
瓦礫はだいぶ片づいたり、アノ大きな貨物船が海にもどったり、仮設住宅にも入れるようになってきているようですが、もっともっと国として被災者の全ての方々に「安心して暮らせる生活」を保障してやることが急がれます。
署名も募金もがんばります。
そして「過去のこと」として忘れ去られないように心がけ、語りつないでいきたいと思います。

2　被災地のみなさんへ

悲しみと不安の中で懸命にたたかい生活していらっしゃるみなさんのことを想い出しながら自分の怠ける心を奮い立たせています。
寒くなってきました。いかがお過ごしでしょうか。
岩手県の先生方のおかげで被災地に身をおくことが出来ました。
改めて津波のおそろしさを知り、その場にいたみなさんの恐怖、家や家族を失った悲しみに寄り添うことができたような気がしています。
「必ず復興する！」希望を持ち、健康を保って新しい年を迎えてほしいと思います。

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（小林古志男）（松山）支部

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと、交流会で学んだこと等

私は日本共産党の厚沢部町議会議員をしております。3月11日の大震災をテレビでみて愕然としました。すぐに募金活動に取り組みました。地区委員会では被災地にボランテアをおくりました。私は行けませんでした。若い人達が行きました。救援物資もおくりました。でも、私は最後でも現地に行ってみたいと思っていました。その時に東北・北海道ブロック交流集会の案内状を見たのです。すぐに参加希望をしたのです。

まず釜石に行きました。テレビで見るとは大違い。がれきの山や土台だけ残っている景色を見て胸がしめつけられました。大槌町はもっとひどいと思いました。バスの中では、中川先生が津波の状況や、どのように避難したのかくわしく説明してくれたのでよくわかりました。陸前高田も大船渡も大きな大きな被害を受けていました。被災された人達はどんな生活をしているのでしょうか。救援物資がちゃんと届いているのか、義援金がすべての被災者に行き届いているのでしょうか。新聞報道では義援金の配布がおくれているとか。心配です。政府の対応も後手後手になっているようで「何をしているんだ。」と怒りがわいてきています。

2　被災地のみなさんへ

被災されたみなさん。お元気ですか。衣食住は足りていますか。全国の人達はこれからも続けて支援していくと思います。国も県も復興に立ち上がるでしょう。でも動きがにぶくいらきっている一人です。完全復興するまで長い時間がかかると思います。全国の人達はそれまで支援を続けて行くと思います。困った時は助けあうことがあたりまえです。共にがんばろうではありませんか

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（　榊　　英子　）　（日高）支部

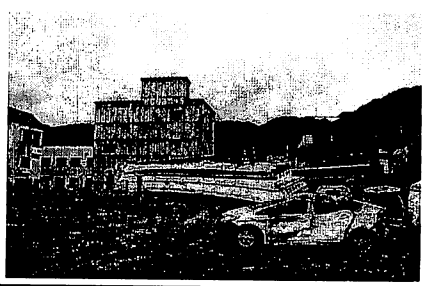
１　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと等

参加者１７０人、４台の大型バスに乗り、現地視察。
説明してくださった中川先生は７８歳、自宅を流され、今回のためにスーツを新調されたとか。東北弁を交えて熱心に話してくださいました。

３月１１日の大震災から半年を経た被災地は、テレビで見ていたよりガレキは片付き、道路は車が通れるようになっていたが、潰れた自動車があちこちに散在して人影は殆ど見あたらない。既に雑草が廃墟を埋め尽くし悲惨な姿を消し去ろうとしていた。
ただ見えない放射能が無気味に漂っているようで恐ろしく感じた。
釜石の仮設住宅が低くつながり粗末なものであった。
そこにすべてを失った人々が呼吸しているのだと思うと、胸がつまる思いであった。
大槌町役場では献花黙祷、救援金を残られた職員に届けた。
まわりは何もなく海がすぐ傍に海が見えた。

２日目は陸前高田、大船渡を視察。
三陸の複雑な海岸線や港に地形によって、津波の被害が大きく違うことを実感する。
強固な高い堤防であっても人知を越える大自然の猛威に勝ることは出来ないと泌々思いました。原発も含め、人間は大自然に対して傲慢になり、征服できると過信してはいないか。
大自然と共生する叡知と謙虚さが根本的に問われていることを痛感しました。

夜行列車での語らいや、同部屋で初参加の宮城の方から石巻の友人の情報も得ることが出来た。来年は秋田と云う。課題がいっぱいある原発問題、体調を整えて参加しようと思います。
札幌支部のみなさん、ありがとう。



２０１１年　全退協　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（佐久間 明光）（石狩・札幌）支部

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと、交流会で学んだこと等

東日本大震災が起こり震災後の様子やボランティアの活動もテレビで放映されていました。

私も５月に、ボランティアに行こうと思い、インターネットでいろいろ調べてみました。

その頃は、関東方面からはボランティアツアーが実施されていて、個人参加を受け入れていましたが、道内からは個人の受け入れ体制は見つけることができませんでした。

今回、東北・北海道ブロック交流集会が企画されていることを知り、是非参加をと決めました。

訪問してみて、大槌町へ行ったとき、役場の周りの平地が津波のため瓦礫の他何もなくなっているところを目にして唖然としました。また、火災のため、壊れていなかった住宅までも、焼かれてしまったことを知りました。

役場の職員も何十人もの方々が死亡したことを知り、改めて津波のすごさを感じました。

陸前高田市では、この広い平野に何万人もの人が住んでいただろう。が、一瞬のうちに建物が壊され、多くの死者・行方不明者が出て、生き残った方々の生活の場全てがなくなってしまった辛さは、今まで、テレビや新聞で見ていた以上に凄まじいものでした。電柱１本もない平野にこれから復旧していくことは並大抵ではないものと思いました。

今は、個人でのボランティアを受け入れる体制ができていることを知りましたので、来年４月頃ボランティアに行って、少しばかりの力ですが手をさしのべてみたいと思っています。

2　被災地のみなさんへ

私は、募金しかしてあげられませんが、被災地の皆さんが少しでも希望を持って生活していけるよう祈っています。

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名　道退教石狩・札幌支部　　渋谷博道　3

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと、交流会で学んだこと等

昨年の「福島交流会」で、来年は「釜石を主会場」との岩手退教の呼びかけがあり、三陸沿岸訪問への期待に胸を膨らませていました。３．１１災害はこの期待を一気に吹き飛ばしました。反面「あるいはこれを主テーマに開催も」と、不謹慎だが密かにおもったりもしたものです。岩手退教が、極めて困難な情勢を克服し、この交流会を大成功させたことに全ての参加者は心からの拍手をおくりました。

具体的な感想は、参加者それぞれの方が、バスの中や感想文などで詳しく述べていますのでそれに共鳴することにして、最初、バスの中で自らの体験を語りつつガイド役を務めた中川先生に衝撃を受け、言葉を失ったのは私だけではなかったようです。これが衝撃の第一歩でした。

昨年の福島交流会で訪問した、郡山・二本松・福島などが原発で、今年は岩手での津波被害の現場に立ってみて、これに的確に対処できずにいる現代日本の支配勢力への怒りがいまさらながら感じさせた東北の旅でした。

＊ＦＡＸによる送信は原稿が汚れる恐れがありますので、郵送で送ってください。
＊同じ様式でパソコン、ワープロ使用による作成も可。

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

今年の岩手の交流会は、予想していたよりずっと重くたくさんの事を問いかけられた交流会でした。

現地の状況はテレビや新聞などでかなりの予備知識は持っていた筈でしたが「百聞は一見に如かず」のたとえ通り、地球エネルギーの巨大さを見せつけられました。「ここは元街の繁華街だった処ですよ」と言われる処は、コンクリートの土台を残して一面の広っぱ。所々にガレキがうず高く積まれているのとビルなどの建物がむきだしの柱を残してポツンポツンと残されているだけで、それがずっと向うの小高い丘の中腹まで続いているのです。「ここで生活していた人たちはうまく逃げられたのだろうか」誰もが一番気になった事でした。

先人の「海が黒くなってたら高いとこにすぐ逃げろ」（命てんでんこ）「これより下に家を建てるな」（津波記念碑）等の教えが、巨大な防波堤の建設によって「安全神話」となり、多くの命を失ったと言います。幾つものプレートの重なりの処に暮らす日本の私達です。それ故に温泉や美しい自然に恵まれた日本です。私達も地球で暮らす一生物であることを忘れずに共存して生きる事を謙虚に求めなければならないと強く思いました。

ガイドをして頂いた中川先生は、自らも家を流され被災されているのに街の復興計画の中心になって取り組まれているとか。厳しい自然の中で暮らしてきた東北の人達の逞しさを見る思いでした。

昨年の福島「松川事件」メーンの集会に続き、多くの事を学ばせてん頂いた交流会でした。厳しい中交流会を決断し準備して下さった岩手の先生方に心からのお礼を申し上げます。有り難うございました。

2011年　10月　18日

道退教札幌支部　土田　智子

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（堤　久子）（札幌　）支部

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと、交流会で学んだこと等

10月5日 5台のバスに分乗して 三陸沿岸を見学して廻りました。
がレきが種類別に山のように積みあげられている所もありました。
半年以上にもなるのに、全部除去されるところまでにならないのかと
改めて政府に対して腹立たしく思いました。
また、ここに住んでいた方々は、今、どこでどんな生活をなさっているのだろうかという思いがこみあげて来ました。
夜はホテルで盛大な会合をしていただきました。
悩みに悩んだ末、今回の当番を実行して下さった（という）岩手県教組の皆様は、例年より大勢の方が来てくれたと、大変喜んで下さいました。それが何よりだったと思います。

2　被災地のみなさんへ

今度の「大きな集い」を困難の中、大成功させて下さって、本当に本当にありがとうございました。
災害のための様々なご苦労、ご心労が少しずつでも癒えていかれますようお祈りいたしております。
（災害の年に"大変な事"を引き受けるなんて、そのエネルギーはどうして、どこから出て来たのでしょう　帰ってからも改めて感心しております。）

＊ＦＡＸによる送信は原稿が汚れる恐れがありますので、郵送で送ってください。
＊同じ様式でパソコン、ワープロ使用による作成も可。

東北大震災をわが身のこととして

伊達市　永井　勢津子（胆振・室蘭支部）

私にとって東北・北海道ブロック集会は久々の参加となりましたが、被災地の現実をどれだけ「わが身のことして」深く考えられるかが問われた岩手集会でした。
緊張と責任を感じながらの参加でしたが、ブロックの連帯を一時に終わらせることなく、これからもどんな復興支援の力を示すことが出来るか私どもや道退教に突きつけた災害地視察交流となりました。

被災地の状況を語ってくれた中川さんは自らが被災者でありながら岩手集会の実行委員長であり、また、地域の復興計画づくりの責任者として「住民本位の街づくり」に携わり会長として奮闘している方の語る言葉一つひとつが災害当時の切羽詰まった生々しい状況を私たちの胸に刻み込むように話され、今何をすべきか、今後どうしていくことか、命を救われ生き残った者の果たすことは何なのか、また、地域再生・未来に生きる子どもたちへの責任等を示してくれました。
そして中川さんは
「私は丸はだかになった。４０年住んだ家は太平洋の藻くずとなったが、命は助かった。故郷を取り戻すまでどれだけかかるか見当もつかないが頑張るしかない」
という気迫に満ちた表情で何か底知れない大きなものに立ち向かう人間の偉大さを示してくださいました。

釜石、大槌町、陸前高田市どこへ行っても大惨事の生々しい傷跡に言葉を失い、足もすくみ、この現状が悪夢であったらと思わずにいられませんでした。
それにしても７ヶ月過ぎようとしている今なお、至るところに渦高く積み上げられたままの瓦礫の山々、鉄骨とコンクリートの土台だけが果てしなく広がる宅地、防潮（波）堤に高く積まれた土嚢を越して容赦なく飛沫が打ち付けられる海岸線などを目前にして、被災地の願いに迅速に応えない国の政治の冷たさ、政策の貧困に怒りを抑え切れませんでした。

被災地大槌町では伊達市民から「子どもさんに少しでも楽しい時を過ごしてもらいたい」と頼まれた折り紙を届け、陸前高田市では、以前お世話になった日本共産党の方にお見舞いを届けることが出来ました。
この災害で市民誘導を最後までされ、命を失った及川市議、家族の全てを失った現革新市長さんなど大災害の爪痕はあまりにも深すぎるのでした。
この現実を直接知って目と心に焼きつけた今、どう自分の中で冷静に受けとめ、被災者・被災地のみなさんの声に何をもって応えていくか、今と将来に向かってすべきことは何か

を見つめ直し行動していくことが求められていると思いました。

「被災地を忘れないでほしい！」

教育の原点である“生きる力”を家庭・学校・地域連携で子どもにどう伝えるか、「命てんでんこ」「地震先駆者の知恵をみんなのものにする」

２２年かけ、何百億も使って造った防潮堤も津浪を防ぐことは出来なかった等を教訓として、中川委員長をはじめ被災地の方々の声を自分の今後に活かしていきたいと思いました。

大震災復興、自身の生活の立て直しも進まない中の二日間、ほとんど立ったままで北海道のバス案内と現地説明をされた中川委員長、現地の方々のきめ細かい対応、被災地での精力的な活動に深く敬意を表するとともに、何より身体を労り、これから続く長い道程。

東北・北海道ブロックの連帯で政治の光が被災地と被災者に届く運動を強めていきましょう。

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（　土井　　寿　）（石狩・札幌）支部

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと等

・　被災地訪問は今回で２度目でした。６月５日、宮城県名取市の閖上地区を訪問しました。この地域は名取川河口に位置し、仙台空港の近くでもあります。
全退教総会の合間に今年の東北・北海道部ブロック交流集会開催について、意見交換することになっていたので、事前に被災地を見ておこうと思ったからでした。

・　私たち退職教職員の多くは、被災地へのボランティア活動は体力的に困難と思います。しかし、被災現場をこの眼にしっかりと焼きつけ、「大震災被災の語り部」の役割は果たせると確信しますし、今回のブロック交流集会が被災現場を訪問することに重点を置いたことは正解だったと確信しています。

・釜石市、大槌町、陸前高田市、大船渡市（バス車中から視察）と訪問し、救援活動の拠点となった遠野市に宿泊しました。全国各地から参集したボランティアのみなさんも当初は私たちと同じ道を辿って被災地に赴いたことを想起し、連帯感を感じます。

・個人的なことになりますが、我が家では釜石市の仮設住宅に住む一家を継続して支援しています。この一家の津浪被害の状況を聞いていましたが、今回現地を訪問できたことによりこの家族の悲しみ・苦悩に一層共感できるものと思っています。
思春期の娘さんはまだ「心的外傷」から癒えていません。彼女の苦悩からの解放のためにご両親と協同で何らかの支援が出来たらと思っています。

・　陸前高田市に関して、ガイド役をしてくださった実行委員長中川淳氏は
「陸前高田市の復興については、私もどうしたらいいか分かりません」と話していましたが、時間はかかっても必ず復興に向けて歩み出すと確信しています。
「支援が必要なのはこれからだ」ということを語っていきたいと思っています。

2　被災地のみなさんへ

・何よりも初めに、岩手県実行委員会のみなさんの献身的な努力に深く感謝申し上げます。中川実行委員長は自ら被災者でありながら被災地復興の先頭に立って献身されている姿に私自身も逆に励まされ、今後の生き方への示唆をいただきました。

・　今回、被災３県の総ての市町村に災害救助法が適応されましたが、災害救助法が今回の災害復興に備えるものでないことも判明したと思います。被災地復興は、日本国憲法にあるように「われら、全世界の国民は、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認」し、憲法９条、１３条、１４条、２５条、２６条、２７条に基づき進めるよう運動していきましょう。

・　今回の交流集会を契機に、東北・北海道ブロック交流の新たな歴史をつくりましょう。特に脱原発のために福島から継続して学ぶことが必要かと思います。

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（野口憲一）（札幌）支部

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと、交流会で学んだこと等

今回、この東北・北海道ブロック交流集会に参加させて頂いたきっかけは、福島県へ牧草をトラックで北海道幌延町から運んだ酪農家の話を聞いた事からでした。この方は、実際に震災と原発事故を目の前で見た時、あまりの惨状に人生観が変ったと語っていたのです。その翌日、道退教で募集していた交流集会へ私もこの目で確かめようと迷わず参加を申し込みました。

そして、半年も経った被災地、釜石市、大槌町に入った時は言葉が出ないと言うか、この町にいた人々の事を思うとやりきれない思いでした。陸前高田市に入った時は、四方八方が何もない惨状にこんな事があるのかと思う程でした。

この惨状をこの目で見た以上、私達は黙っていられません。ボランティアには参加できませんが、この北海道で、東北の復興の為、行動しなければと言う、思いにかられました。

本当に人生観が変わりました。

2　被災地のみなさんへ

・とりわけ岩手退教の皆様、この様な大変な中、私達を迎えて頂き本当に有難うございました。微力ながら、私も頑張っていきたいと思います。

＊ＦＡＸによる送信は原稿が汚れる恐れがありますので、郵送で送ってください。

＊同じ様式でパソコン、ワープロ使用による作成も可。

あれから七ヶ月　『いまだ　声をうしなう』　被災地を訪ねて

初めての交流会の参加でした。
交流会の開催に向けて被災を受けた中での心温まる受け入れに感謝しています。
五感で捉えた記憶を言葉では表せない部分もありますが七ヶ月たった今をお伝えしたいと思います。

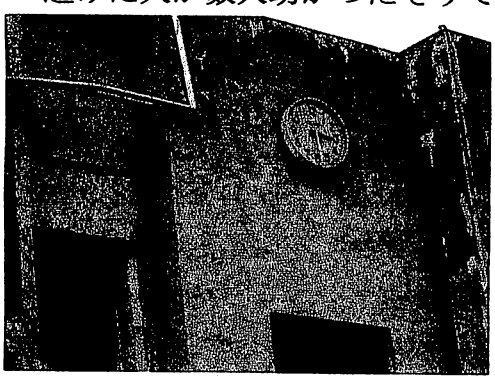
深夜の寝台車にガタゴト揺られ、夜明けの東北の空は静かに私たちを迎えてくれました。今回の旅は被災地に学ぶということで「大槌町・釜石港・陸前高田」の被災状況を直視して住民の願いを知ってほしいとの企画でした。

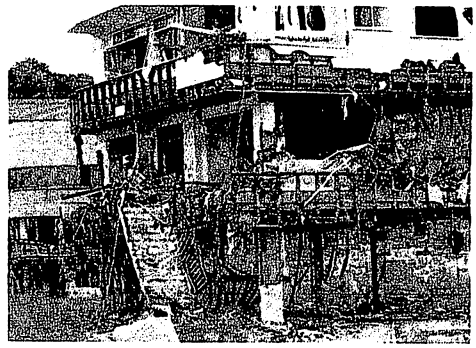
案内してくれた方も自宅を失い今は避難所生活から出て間借り生活との事でした。

1，　大槌町

遠野の黄金に豊かに実った稲田を抜けるころから津波の被害が目に飛び込んできました。大槌町は人口 15000 人の町でした。津波による浸水が広範囲で全壊家屋が多く、さらに火災も発生し、役場が被災し町長・職員も犠牲になっています。いまだに行方不明の人がいます。役場の時計は地震から津波が来た時間で止まっていました。

地震から 30 分しかなかったそうです。どう逃げれたのでしょうか。屋上に逃げた人が数人助かったそうです。

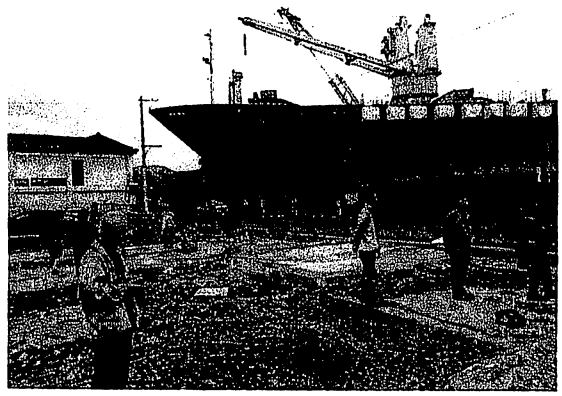




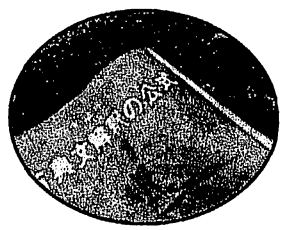
2，釜石港・陸前高田

釜石港には５千トンの中国の貨物船が防波堤を乗り越えていました。

いまだ処理できないでいました



陸前高田では、海水浴場として人々を集めていた浜も、観光ホテルも２ｋｍはなれた山裾まで一面平地となり、命を得てこの状況を見たときの住民の気持を思うと辛い気持ちになり涙を堪えられませんでした。そこに落ちていた受験参考書を見たとき３月１１日の受験生だった高校生のその後に思いが馳せました。又赤い花緒のがっこを履いていた女の子にも。



野尻　忠子　（石狩・札幌）支部

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流会集会に参加して

氏名（宮腰屋　　世）（道退教檜山支部）

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと、交流会で学んだこと等

2011年3.11の三陸大津波の被災現場を目にして、ただただ自然の脅威に人間の無力さを思い知らされるばかりでした。大槌町、釜石市、陸前高田市の海岸線に沿った平地では、余程頑丈な鉄筋構造の建造物が辛うじてその場に姿をとどめていましたが、内部は２階や３階までも瓦礫や泥土で埋まり、住居の殆どは、すべて瓦礫と化してしまったのでした。又、海に注ぐ河川の両岸はかなりの奥地まで津波が襲い、海に近いところでは小高いところに建つ民家を残すだけでほぼ瓦礫と化し、津波の勢いが弱まった奥地で民家の痕跡を確認できるといった悲惨な状態でした。

被災の現場に下りてみると、足の底から被災された多くの方々の叫びが伝わってきて、もし自分が被災者であったら、と被災者に置き換えて共感を試みていました。住み慣れた愛着の強い土地を追い出され、住居を奪われ、かけがえのない家族を失って、生きていく自信も気力も失せてしまいそうな状況の人もたくさんいたのではないでしょうか。何処へ行っても人の姿が見えないのがとても気になりました。大津波災害から７ヵ月、瓦礫の処理も少しずつ進んでいるようですが、それ以外は国政の貧困が大きく影響して遅々として進んでいません。大津波を何度も体験している三陸沿岸の人々は、その都度教訓を導き出して防災に努めてきたのですが、人智を上回る自然の猛威に対しては、必ずしも効果を上げることはできませんでした。しかし今度こそは絶対克服する恒久策が生み出され事と確信しています。すでに全国から様々な知恵が提起されています。それらの知恵を参考に、被災地住民が主体的・積極的に故郷の復旧・復興に立ち上がってほしいと思います。

2　被災地のみなさんへ

明治三陸地震から１１５年目にして今回の大地震・大津波が発生、言語に絶する被害に会われた皆さんに、心よりお見舞い申し上げます。更に、大切な家族を失われた皆様には心よりお悔やみ申し上げます。未だ悲しみも癒えない中にありながら、その上住む家までも無くする、余りにも残酷な環境での日々の暮らしに、苦衷の程察して余りあります。

さて、当事者である皆さんにとりましては、一刻も早い「生活の復旧」、「地域の復旧・復興」が急がれます。私どもも皆さんの支援のために微力ですが取り組みを進めます。

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（室崎 和佳子）（石狩札幌 支部

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと、交流会で学んだこと等

大槌小学校、大槌中学校の児童生徒が眼前に迫る津波を見て「ここにいたんでは助からない。もっと上へ行こう」と判断し、中学生が小学生の手を引き、さらに高い所へ避難したことが素晴らしい。ほとんどのものを失った中での大きな光だと思います。私たち北海道の参加者たちを２日間にわたってバスの中でガイドしてくださった中川さんは、ご自身の家が流された方でした。自分の目の前で流されていく家や人を見てどんなにか辛かったことでしょう。そういう中で私たちを迎えるために失礼のないように「今着てる服をまず買ったんですよ」と笑顔でおっしゃっていました。その笑顔の裏の悲しさを思い、胸が痛みました。全てを失った被災地へ今こそ政府の出番です。あれこれくだらないことをする前に、まず被災地の復興にたくさんのお金を使ってほしい、と切に思いました。

2　被災地のみなさんへ

ご自分が被災されたにもかかわらず私たち参加者のためにお骨折りいただきましたことに心より感謝申し上げます。「復興プロジェクト」を立ち上げ、活動を始めたとの報告を聞きまして、その魂のたくましさに敬意を表します。どうぞ希望を失わずお暮れますよう北海道の地より祈っております。

＊ＦＡＸによる送信は原稿が汚れる恐れがありますので、郵送で送ってください。

＊同じ様式でパソコン、ワープロ使用による作成も可。

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（山田幸子）（札幌）支部

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと、交流会で学んだこと等

5月に石巻に行って日和山から港の方面を見るとコンクリートの建物がぽつぽつと残っているだけの様子を見て自然の脅威の前には人間の知恵も力もひとたまりもないことを感じさせられました。今回は4か月たった被災地を見せてもらいました。道路は通れるようになったが何もなくなった。しかし、家の土台は確かに人が住んでいたことを示していた。被災した人々の生活が今だに不安な状況におかれていることに思いをおぼえました。できればその方々の話を聞いてみたかった。釜石の港で見た大型タンカーが防波堤に突きささっていた様は自然の威力の象徴のように思いました。人は自然と共存すべきではないかと思う旅でした。

2　被災地のみなさんへ

「がんばってください」はとても無責任なことばですね。私達に何ができるか言ってください。皆さんが幸せになるために私のできることでがんばってみます。

＊ＦＡＸによる送信は原稿が汚れる恐れがありますので、郵送で送ってください。

＊同じ様式でパソコン、ワープロ使用による作成も可。

２０１１年　全退教　東北・北海道ブロック交流集会に参加して

氏名（大田裕子）（札幌）支部

1　被災地　釜石市、大槌町、陸前高田市を訪問して感じたこと、伝えたいこと、思ったこと、交流会で学んだこと等

3.11のすさまじい惨状を見て、自分の目で実際のようすを少しでも実感したいと思い参加させてもらいました。見学できたのは、大槌町、釜石市、陸前高田市です。
バスで説明してくださった岩手退職の中川氏が、最初は見世物みたいに考えられるのでは？と被災者の人達の心情を考えて躊躇していたが、かえって、被災者の人達から、"いや、今の現状をしっかり見て、みんなに話し広めて欲しい"と訴えられたので、この企画を実行することを決意したとのお話しを聞いて、その心を少しでも受けとらなくてはと思いました。
帰札後、TVで防潮堤に突きささったあの巨大な外国の貨物船が海に戻された映像を見ましたが、何台もの大きなクレーンでようやく持ち上げられるような巨大な船が防潮堤に突きささった…目を疑うような状景に津波のすさまじさ、恐しさを実感させられました。
災害からもう7ケ月以上もたっているのに、あちこちに残されている巨大なガレキの山、土台のコンクリートだけが人々の住んでいた証しの原っぱ。1・2階はみなガラスがこわれ、むき出しの鉄骨になったコンクリートの建物、地盤沈下で水がたまり海のようになった沿岸部、ひっくり返った舟や流された沢山の車、このようなすさまじいエネルギーをもった、いくつものプレートの上に日本はのっかっているのだと知りました。（津波や地震を起す）
生き方を考えさせられる旅でした。

2　被災地のみなさんへ

偏重の安全神話にとらわれず、地域に根ざした先祖の知恵を取り入れることの大切さを知りました。
寒さに向って一層きびしい生活になると思いますが、お身体に気をつけて生きてください。私達もできるかぎりの協力をしていきたいと思います。

＊ＦＡＸによる送信は原稿が汚れる恐れがありますので、郵送で送ってください。
＊同じ様式でパソコン、ワープロ使用による作成も可。

編集後記

出発前に、「被災地訪問記」をつくるなど頭の中にありませんでした。
第19回を迎える東北・北海道ブロックですが、参加に関して文章記録に残す等過去にはなかったことでした。出発直前になり、岩手退教現地事務局から「定員120名でしたが参加希望者が190名を越えた」と報告されました。
「開催しても参加者は少ないのではないか」と6月の全退教総会時の会議でも開催を懸念する声がありました。しかし、この度の大震災そして東電による原発事故の被害の甚大さと国による復興の立ち遅れが次第に明らかになり、被災に関する関心も一層高くなったのではないでしょうか。

出発直前になり参加する役員数名で協議し、参加記録を残したいと参加の皆さんに協力をお願いすることになりました。視察は過密なスケジュールでしたし、突然の提起にも関わらず多くのみなさんの賛同を得ることができました。

被災地の惨状に心が痛み、参加したKさんから次のような添え書きをいただきました。
「・・・何度も書き始めるのですが、書けません。被災地へ降り立った時の体の震え、涙・・・言葉はありませんでした。そのまま、今も言葉に表す力がありません。でも書かなければ」

11月5日から開催された合同教育研究全道集会のテーマ討論には、被災地から岩手県立高田高校の伊勢　勤子先生が「蘇れ高田高校〜東日本大震災を乗り越えて〜」と題して報告されました。彼女は
「来年は転勤になるかもしれません。だけど再び海岸部の学校に勤務して、今回の大震災の教訓を活かした学校づくりに励みたい」と述べていたことに逆に励まされた思いです。

遠野市のホテルで行われた夜の交流会には、被災地ボランティア活動に取り組んでいた千葉退教の皆さんも参加していました。

中川実行委員長が陸前高田市の惨状に「復興に何年かかるか私も分かりません」と述べていました。原発事故被害の福島の復興は更に困難を極めるものと思います。

私たち個々人には力はありませんが、全退教・道退教会員が互いに知恵を出し合い、励まし合って、子どもたちが未来に一筋の光を見いだせるよう支援して行きたいものです。
『忘却こそ被災者の危機』（中井久夫　精神科医）、この参加記録が今後の支援活動に僅かでも貢献できることを願います。

（文責　土井　寿）